

東札幌三樹会病院における臨床統計

(第3報) 1984年度外来新患統計

東札幌三樹会病院 (院長: 丹田 均*)

丹	田	均
加	藤	修 爾
大	西	茂 樹
坂		丈 敏
中	嶋	久 雄

CLINICAL STATISTICS ON OUTPATIENTS AT THE
UROLOGICAL CLINIC OF HIGASHI SAPPORO
SANJUKAI HOSPITAL IN 1984Hitoshi TANDA, Shuji KATO, Shigeki OHNISHI,
Taketoshi SAKA and Hisao NAKAJIMA*From Urological Clinic of East Sapporo Sanjukai Hospital*
(Chief: Dr. H. Tanda)

A statistical study was performed on new outpatients. The total number of new outpatients in 1984 was 6,890 (male: 4,381, female: 2,509) and the male to female ratio was 1.75:1. They had urogenital diseases definitely diagnosed (5,925), indefinitely diagnosed (325), normal (282), and diseases other than urogenital (358). Thirty percent of the outpatients were referred to by other sources. The number of operations on new outpatients was 191, circumcision, resection of condyloma and vasectomy were representative. The peak of the age distribution was in the thirties for males and in the twenties for females.

For the first time in Japan, we treated renal and upper ureteral stones using Extracorporeal Shock Wave Lithotripsy (ESWL) on September 1st 1984. The results of ESWL at our hospital have been satisfactory.

A statistical study was made on new outpatients according to the international disease classification. There were 94 malignant (urogenital) tumors (1.5%). The major diseases of the new outpatients were cystitis (acute or chronic: 22.8%), prostatitis (17.0%), upper urinary tract stone (12.9%), benign prostatic hypertrophy (10.1%). In males the major diseases were prostatitis, benign prostatic hypertrophy, upper urinary tract stone, balanoposthitis, gonorrhea, and in female they were cystitis, upper urinary tract stone, pyelonephritis, renoptosis.

We conclude that our hospital plays a major role as a private urological hospital.

Key words: Clinical statistics, Outpatients clinic

*現: 札幌医科大学非常勤講師

はじめに

東札幌三樹会病院の外来新患統計を第1報¹⁾、第2報²⁾を報告してきた。同様に、今度1984年度の外来新患統計をまとめたので、第3報として報告する。なお、当院では、1984年9月1日より、本邦ではじめて、体外衝撃波による腎・尿管結石破碎術(Extracorporeal Shock Wave Lithotripsy: ESWL)を施行し良好なる成績をあげている。このことについてはすでに日本泌尿器科学会誌(日泌尿会誌)に1984年12月26日に投稿中である。

対象と方法

1984年1月1日より同年12月末日までの1年間に当院を新患として受診した患者を対象とした。

疾患分類は、第1報¹⁾に準じた。

結果と考察

1. 外来新患数

新来患者数は、6,890例で、男子は4,381例(63.6%)、女子は2,509例(36.4%)であった。この男女比は1.75:1であるが、前年度と同様であった。新患総数は前年度に比較して¹⁾989例増加(1.17倍)した。紹介患者数は2,101例(30.5%)であった。

受診した新患を年齢層にわけ、さらに男女別に検討した結果をTable 1に示した。男子では30歳代を、女子では20歳代をピークとした。この傾向は、開業した1978年11月1日以来まったく同じ傾向であった²⁾(Fig. 1)。

新患のうち診断が確定したものは5,925例(86.0%)、

Table 1. 外来新患の年齢層別性別分布(1984年度)

性別	0-10歳	11-20歳	21-30歳	31-40歳	41-50歳	51-60歳	61-70歳	71-80歳	81-90歳	91-100歳	合計
男性	423	339	825	845	567	554	447	292	86	3	4381
女性	128	259	539	420	376	421	245	107	13	1	2509
合計	551	598	1364	1265	943	975	692	399	99	4	6890

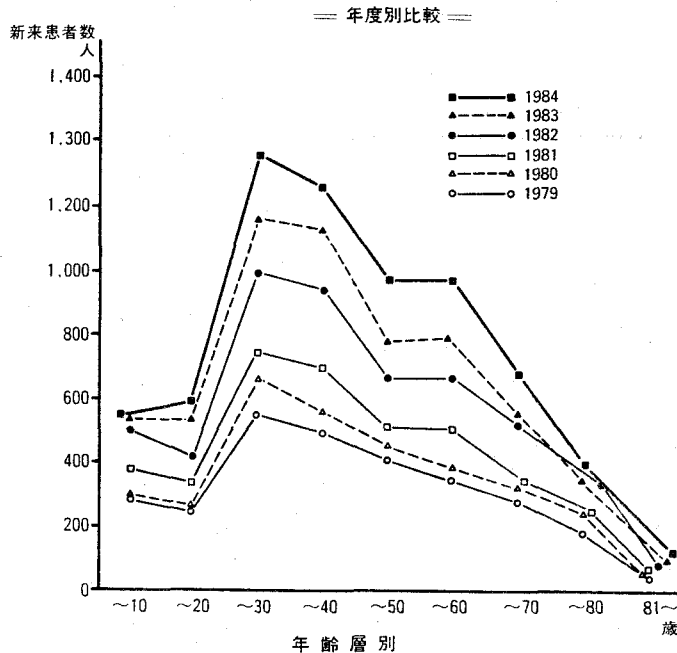


Fig. 1. 年齢層別症例数

Table 2. おもな外来手術名と例数(1984年)

手術名	191
環状切開	85
コンジローマ切除	46 (うち女1)
精管結紮	33
嵌頓包茎整復	14
カルンケル切除	3
その他	10

Table 3 (1)

伝染病および寄生虫病

	例数	男	女
016 性尿器系の結核			
腎結核	12	5	7
096 梅毒	4	3	1
098 淋菌感染	270	239	31
134.1 毛じらみ症	18	16	2

新生物(悪性)

	例数	男	女
185 前立腺癌	21	21	--
196 睾丸腫瘍	6	6	--
187.0 陰茎癌	2	2	--
188 膀胱腫瘍	47	34	13
189.0 腎癌(Grawitz 腫瘍)	10	6	4
189.1 腎盂・尿管腫瘍	3	2	1
189.2 尿道腫瘍	2	1	1
189.9 尿膜管腫瘍	2	1	1
182.2 子宮癌の尿路侵襲	3	--	3

新生物(良性)

	例数	男	女
222.1 外陰部コンジローマ	51	50	1
223.8 尿道ポリープ	7	6	1
尿道カルンケル	24	--	24

未診は325 (4.7%), 泌尿器科の正常は282例 (4.1%), 他科は358例 (5.2%) であった。入院したものは1,021例で, うち645例が他院より紹介うけた。

2. 外来患者手術

外来手術数は, 191例で, 男子183例女子8例, であっ

Table 3 (2)

内分泌・栄養・代謝の疾患

	例数	男	女
257 睾丸機能障害			
(60.6) 無精子症	12	12	--
(X X Y症例)	2	2	--
乏精子症	18	18	--
類宦症	4	4	--
死精子症	1	1	--
血精液症	20	20	--
インポテンツ	17	17	--
270 テスチン症	5	3	2

精神障害

	例数	男	女
306.6 夜尿症	39	23	16

Table 3 (3)

性尿器系の疾患

	例数	男	女
580 急性腎炎	8	3	5
581 ネフローゼ症候群	9	5	4
582 慢性腎炎	45	21	24
584 腎の萎縮	9	5	4
590.0 腎盂腎炎	115	27	88
V U R	18	3	15
591 水腎症	42	21	21
592 腎および尿管結石			
腎結石	221	137	84
(両側)	46	30	16
腎・尿管結石	40	31	9
尿管結石(経過も含む)	540	408	132
(両側)	16	12	4
594 膀胱結石	20	16	4
尿道結石	4	4	--
腎杯憩室結石	5	3	2
尿管瘤結石	1	0	1

た。その内訳を Table 2 に示した。環状切開が85例 (44.5%), コンジローマ切除46例 (24.0%), 精管結紮33例 (17.2%) がおもであった。コンジローマは, 前年に比較して2倍増加していた。

3. ICD に基づく1984年度新来患者疾患統計
(Table 3 (1)~(7))

Table 3 (1) に示したように淋菌感染は, 男子239

Table 3 (4)

		例数	男	女
595	膀胱炎	787	33	754
596	亀頭包皮炎	266	266	—
597.0	尿道炎	44	42	2
597.1	尿道・膀胱炎	595	11	584
598	尿道狭窄	43	40	3
600	前立腺肥大症	625	625	—
	膀胱頸部硬化症	7	7	—
601	前立腺炎	1065	1065	—
	(うち急性前立腺炎)	28		
603	陰嚢水腫	58	58	—
604	睾丸炎	4	4	—
	副睾丸炎	105	105	—
	(両側)	(3)		
605	包茎	193	193	—
607	その他			
	睾丸捻転	3	3	—
	嵌頓包茎	23	23	—
	睾丸垂捻転	7	7	—
	尿道異物	1	1	—
	膀胱異物	2	1	1

Table 3 (5)

先天異常

		例数	男	女
752	性器の先天異常			
752.1	停留睾丸	26	26	(B:8, R:11, L:7)
	遊走睾丸	13	13	—
752.2	尿道下裂	2	1	1
752.8	傍尿道口嚢腫	6	6	—
753	泌尿器系の先天異常			
753.1	腎嚢胞	43	21	23
	嚢胞腎	7	5	2
	海綿腎	5	3	2
	迴転腎	2	1	1
	骨盤腎	1	1	0
	馬蹄鉄腎	6	5	1
	重複腎盂(兼不完全重複尿管)	23	7	16
	(兼完全重複尿管)	1	0	1
7534	下大静脈後尿管	2	2	0
	尿管瘤	1	0	1
	腎下垂	101	9	92
	腎杯憩室	7	2	5
	巨大尿管	1	1	0
	尿管憩室	1	1	0

例, 女子31例経験したが, 年齢層の若年化と増加の傾向はいっそう高まっている。前年は184例経験したが女子は11例のみであったが, いずれも今年度は増加した。

Table 3 (6)

不慮の事故

		例数	男	女
E810	腎外傷	8	6	2
	尿道断裂 完全	1	1	—
	不完全	8	8	—
	睾丸打撲	5	5	—
	睾丸破裂	3	3	—
	陰茎損傷	5	5	—
	陰茎折症	2	2	—
	神経因性膀胱*	159	93	66
	瘻孔状態*	8	7	1
N939	性尿路系の異物			
	尿道異物	1	1	—
	膀胱異物	2	1	1
	陰嚢内異物	2	2	—

Table 3 (7)

症状および診断名不明確の状態

		例数	男	女
786	泌尿器系に関する症状			
786.0	疼痛	55	32	23
786.1	尿閉	2	1	1
786.2	尿失禁	11	4	7
786.3	排尿頻数	31	19	12
786.5	乏尿・無尿(尿毒症)	38	19	19
	急性腎不全	4	2	2
789	尿成分異常			
799.0	蛋白尿	37	20	17
	血尿	114	61	53
	腎出血	28	11	17

睾丸腫瘍は6例で, 1例が embryonal carcinoma で, 5例が seminoma であった。膀胱腫瘍47例経験した。1982年より同様の経験数であった。この性別, 年齢層別分布を Table 4 に示した。稀有とされてい

Table 4. 主疾患の年齢層別の症例数 (188. 膀胱腫瘍：47例)

性別/年齢層	～10歳	11～20	21～30	31～40	41～50	51～60	61～70	71～80	81歳～
男：34	—	—	1	—	—	11	11	10	1
女：13	—	—	—	—	—	3	5	3	2

Table 5. 主疾患の年齢層別の症例数 (590. 急性腎盂腎炎：115例)

性別/年齢層	～10歳	11～20	21～30	31～40	41～50	51～60	61～70	71～80	81歳～
男：27	6	3	7	2	6	2	0	1	0
女：88	4	12	23	19	11	16	3	0	0

Table 6. 主疾患の年齢層別の症例数 (592. 尿管結石症：540例)

性別/年齢層	～10歳	11～20	21～30	31～40	41～50	51～60	61～70	71～80	81歳～
男：408	1	16	65	123	87	82	23	11	0
女：132	0	16	22	33	25	21	13	2	0

経過せる尿管結石 男2

Table 7. 主疾患の年齢層別の症例数 (595. 急性膀胱炎：787例)

性別/年齢層	～10歳	11～20	21～30	31～40	41～50	51～60	61～70	71～80	81歳～
男：33	15	7	4	2	1	1	2	1	0
女：754	28	111	250	117	93	91	39	21	4

Table 8. 主疾患の年齢層別の症例数 (600. 前立腺肥大症：625例)

性別/年齢層	～10歳	11～20	21～30	31～40	41～50	51～60	61～70	71～80	81歳～
男：625	—	—	—	1	4	101	247	204	68
(膀胱頸部硬化症)7	—	—	—	2	1	4	0	0	0

Table 9. 主疾患の年齢層別の症例数 (601. 前立腺炎：1,065例)

性別/年齢層	～10歳	11～20	21～30	31～40	41～50	51～60	61～70	71～80	81歳～
男：1037	1	54	265	310	208	142	51	6	0
急性(膿瘍)28	—	1	6	9	7	4	1	0	0

る尿管管腫瘍を男女1例ずつ経験した。

Table 3 (2) に示したように、Klinefelter 症候群2例を経験した。チスチン症男子3例女子2例を経験しESWLにて全例治癒せしめた。

性尿器系の疾患 (Table 3 (3)) において、腎盂腎炎115例受診しその性別、年齢層別分布を Table 5 に示した。男子27例の原疾患について精査したが明白な疾患はなかった。腎・尿管結石症は807例 (腎杯憩室

結石、尿管瘤結石含む) 経験した。前年度524例の経験例数と比較して、かなり増加した。これは、ESWLを導入した時期から日本全国および外国からの各方面よりの紹介などによって、その治療を含め受診した結果と考えている。尿管結石症540例の性別・年齢層別分布を Table 6 に示した。

膀胱炎787例経験した。その性別・年齢層別分布を Table 7 に示した。同様に前立腺肥大症を Table 8

に前立腺炎を Table 9 に示した。

先天異常を Table 3 (5) に示したが、停留睪丸を26例経験し、両側 (B) を8例、右側 (R) 11例、左側 (L) 7例であった。問題の無いかぎり3〜4歳まで固定術を施行している。腎・尿管奇型では腎のう胞43例経験した。これらに対しては、のう胞の穿刺をまず試みて経過をみている。稀有な下大静脈後尿管、巨大尿管、尿管憩室などを経験した。

症状、および診断名不明確の状態 (Table 3 (7)) について、疼痛55例経験したが、多くは尿路結石症の疑いである。急性腎不全4例経験した。1例は農薬服毒で死亡した。血尿114例は、健康診断にて指摘されて受診したものが大部分である。IVP で異常なく、内視鏡的に炎症所見を認めることが多かったが、自覚症状もなくこの範ちゅうにいれた。

不慮の事故について、この範囲にいれるのは不適当なものもまとめて Table 3 (6) に示した。腎外傷8

例はすべて保存的療法にて治療した。神経因性膀胱59例の多くは、脳卒中、脳血栓後遺状態によるものである。陰茎折症2例経験した。手術的に成功している。尿性路系の異物はチューブ、体温計などであった。いずれも非観血的に剔出した。

ま と め

1. 泌尿器系悪性腫瘍は94例で有疾患数6,250例に対して1.5%であった。

2. 外来新来患者の主疾患を Table 10 に、男女別主疾患を Table 11 にまとめた。膀胱炎 22.8%, 前立腺炎 17.0%, 上部尿路結石症 12.9%, 前立腺肥大症 10.1%が主疾患であった。前年度に比し、上部尿路結石症が2.7%, 淋菌感染が0.8%と増加した以外は、前年度より新来患者数は増加しているけれども、その主疾患の割合は前年の割合と同様であった²⁾ (Table 12)。

Table 10. まとめ (1) 1984年度外来新患の主疾患

主 疾 患	例数	(1983年度%)
1. 膀胱炎(急性・慢性)	1426 (22.8%)	(22.4)
2. 前立腺炎(急性・慢性)	1065 (17.0)	(16.7)
3. 上部尿路結石症	807 (12.9)	▲ (10.2)
4. 前立腺肥大症 (BNC含む)	632 (10.1)	(10.4)
5. 淋菌性感染	270 (4.3)	▲ (3.5)
6. 亀頭包皮炎	266 (4.3)	(4.3)
7. 包 茎	193 (3.1)	(4.1)
8. 神経因性膀胱	159 (2.5)	(2.1)
9. 腎盂腎炎	115 (1.8)	(2.3)
10. 副睾丸炎	105 (1.7)	(1.9)
11. その他 腎下垂、陰囊水腫、膀胱腫瘍		

()%は有疾患数6250例に対する割合

Table 11. まとめ (2) 1984年度新来患者男・女的主疾患
(男) (女)

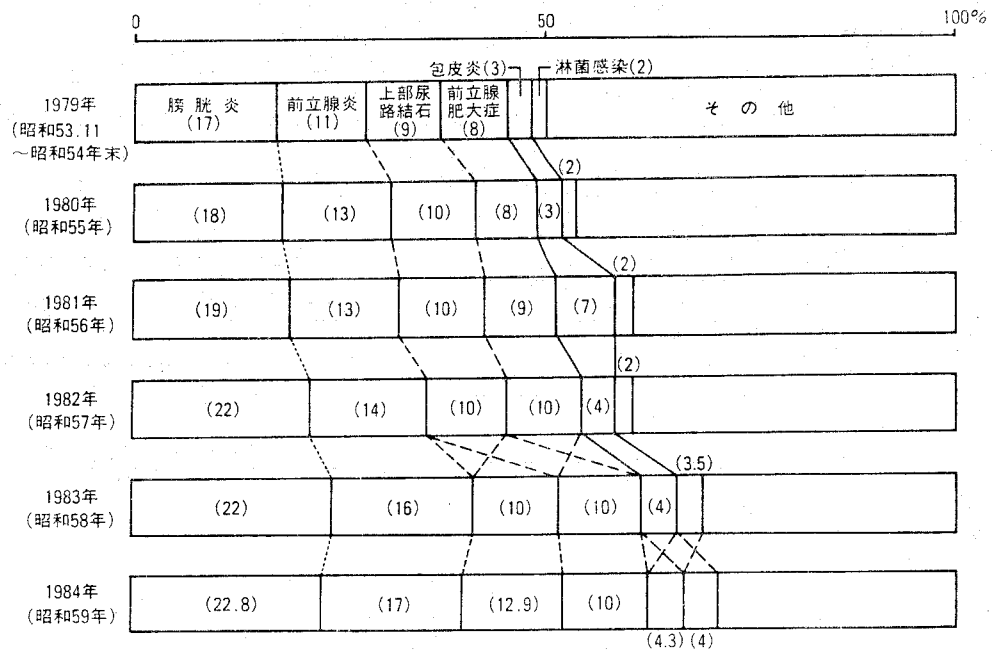
主 疾 患	例数	順位	主 疾 患	例数
前 立 腺 炎	1065(26.5%)	1	膀 胱 炎	1340(60.1%)
前立腺肥大症	632(15.7)	2	上部尿路結石	225(10.1)
上部尿路結石	576(14.3)	3	腎 下 垂	92(4.1)
亀頭包皮炎	266(6.6)	4	腎 盂 腎 炎	88(3.9)
淋 菌 感 染	239(5.9)	5	神経因性膀胱	66(3.0)

()%は有疾患数に対する割合

男: 4021

女: 2229

Table 12. 外来（新患）患者の主疾患



この論文の主旨は1985年3月第276回日本泌尿器科学会北海道地方会に発表の予定である。最後にコンピューター処理による資料整理に協力していただいた小倉利文、斎藤範之両薬剤士に感謝いたします。

文 献

- 1) 丹田 均・加藤修爾・大西茂樹・坂 丈敏・中嶋久雄：東札幌三樹会病院における臨床統計（第1

報）1983年度外来新患統計。泌尿紀要 30：1671～1675, 1984

- 2) 加藤修爾・大西茂樹・坂 丈敏・中嶋久雄・丹田均：東札幌三樹会病院における臨床統計（第2報）開設より5年間余の外来新患統計（1978. 11. 1～1983. 12. 31.）泌尿紀要 30：1677～1684, 1984

（1985年2月6日受付）